

アメリカ社会における高等教育と遠隔教育について

— ヴァーチャル・ユニヴァーシティの現状 —

東 泰正、伊藤 飛鳥

The Higher Education and the Distance Education in American Society —Current Situation of the Virtual University—

Yasumasa HIGASHI, Asuka ITO

はじめに

ヘーゲルは、「ミネルヴァのフクロウは、夕闇と共に舞い始める。(Owl of Minerva begins its flight when dusk is falling)」の言葉に、知恵と学問の女神、ミネルヴァの使者であるフクロウは、一日が終わろうとする夕闇が迫る頃に遅れて来るので、実用的な役に立たないことを示唆している。又、時代の終焉が近づくと、知恵の女神の使者が舞い始め、次の新しい時代の黎明に備えると言う解釈もある。高等教育を含めて教育の「新しい地平線の時代 (new horizons age)」の黎明期に、進歩する文明社会における高等教育の役割は何か、又、その役割を果たすためには、いかにあるべきかを考える時、高等教育の将来には、無限の機能 (unlimited functions) が求められる。

世界の諸国家においても、高等教育は、その社会を指導する中心に存在している。この高等教育の未来を展望するために、先進国アメリカの高等教育の現状と動向を考察することが、意義あることと思われる。社会に存在する諸制度は、常に時代と共に変化をしている。しかし、その諸制度の中でも教育制度は、保守的で、変化の速度が最も遅い制度の一つといわざるを得ない。教育制度そのものが、変化しにくい性質のものであることに加えて、アメリカの高等教育制度とそのシステムは、ある部分においては、他国とは大きく乖離しているため、アメリカのシステムが、諸外国にとって、手本になるかどうかは分からない。しかし、反面、高等教育は、国際的な制度であるから、アメリカと他国との現時点での乖離は、比較的早期にその距離を縮めてしてしまうかもしれない。特にわが国の高

等教育は、アメリカとの共通点や類似点を多分に共有しているため、アメリカの現状を分析し、考察することは、意味のあることと思われる。

I アメリカ高等教育の変遷

アメリカの高等教育は、50年代から60年代にかけては、黄金時代 (golden time) であった。公民権運動によって女性と黒人層の高等教育への進学、政府援助の奨学金による退役軍人のキャンパスへの帰還により、高等教育機関の在籍者数は飛躍的に伸びた「津波 (tidal wave)」の到来であった。又、連邦政府から支出される高等教育の研究費や奨学金は、年10数%の伸びによって支えられ、高等教育は、最盛期を迎えた。大学の新設も相次ぎ、コミュニティ・カレッジの全米への設置は、高等教育への関心を高める結果となった。この時代を過ぎて1970年代にはいると衰退期に向かった。黄金時代から氷河時代 (ice age) に移行したと見られている。

次に高等教育機関の機能の変転について検証する。高等教育機関の機能は、当初の「専門職の養成とその行動倫理及び学術研究」から「社会的公正と教育の機会均等」へと今なお変質続けている。敷衍すれば、「低所得者や社会人を対象とした知的欲求に応える補完的な学習環境」の提供が高等教育機関に求められるようになった。それに対応できる「アカデミック (academic: 非実地的な) 研究者よりもプラグマチック (pragmatic: 実用的な効果や価値のある) 講師」「成績評価の新基準」「新しい学位と資格」「新しい認可基準」が求められている。このことは、アメリカ社会における高等教育は、「社会のすべてと即応的に関

連性を持つ」ことが求められていることを意味している。

このようにアメリカ社会における高等教育の位置づけと機能は、限られたエリートのためのみに存在することなく、向学の意味ある者に、いつでもどこでも高等教育が受けられる制度へと推移していると言える。このことは、科学技術の発展・進歩と不可分であり、インターネットの出現により、革命的もしくは少なくとも革新的な新局面を迎えていると言っても過言ではないと思われる。

II アメリカにおける遠隔教育

(1) 沿革

通信教育、eラーニング、ディスタンス・ラーニングなどの名称で呼ばれる物理的な敷地や校舎を持たないノンキャンパス（non-Campus）の大学の現時点における究極の形態をヴァーチャル・ユニヴァーシティ（virtual university；VU）と称することとする。インターネットを利用したオンラインによる教育を行う大学のことであり、その最先進国アメリカの高等教育システムとしてのVUの機能や仕組みを検証する。

キャンパスを持たない遠隔システムの高等教育機関としては、1969年に設立されたイギリスのオープン・ユニヴァーシティ（open university）があり、その後、世界各地に設立された同様の教育機関はこれに倣って、オープン・ユニヴァーシティと呼ばれた。アメリカにおける通信教育は、1892年に始められたシカゴ大学の大学公開講座センター（Extension Center）が、印刷紙媒体による教材を郵便物として学生の元に郵送した方式が最初とされている。ついで紙に印刷されたものに加えて、ラジオによる音声、テレビによる映像が加えられるようになった。科学技術の進歩に伴うコミュニケーション手段の汎用化である。

アメリカのヴァーチャル・ユニヴァーシティとしては、1971年にエクセルシオ・カレッジ（Excelsior College）が初めて設置され、認可された。この大学には、校舎などの施設構造物は存在せず、学生はキャンパスに通うことなく、学位を取得することができるシステムから、「実体」はないが「本質」は存在する大学として、virtual（実体や事実ではないが本質）と称された。90年代に入るとインターネットが軍事用から民生用にも利用可能となり、オンラインによる画期的な遠隔教育のインフラが整うこととなった。

(2) オンライン遠隔教育

インターネットを利用したオンラインによるVUが

画期的であるのは、従来の方式が大学から学生への一方通行（one way）であったのに対して、双方向（two way）性が可能となったからである。従来のコミュニケーション手法と比べると格段に、教育機関としての学習目標達成度や受講者の満足度が高くなった訳である。

このインターネットによるオンライン教育のさらなる利便性は、双方向性に加えて、いつでもどこでもコミュニケーションが可能である点である。すでに社会人となった者が、再び就学を志した場合、現在の仕事を放棄してキャンパスに移動することは、現実の困難を伴う。社会人にとってのオンラインによる高等遠隔教育の社会的ニーズは、急速に高まっており、教育産業としても企業の公開や上場が相次いでいる。就学受講者の数は、キャンパスへの通学（on campus）学生数を凌駕し、2003年には、250万人を超えてると予測されている。従来型のキャンパスを持つ4年制大学のおよそ90%が、遠隔教育の部門を整えて、教授陣（faculty）とカリキュラムを応用している。インターネット技術の出現がアメリカの高等教育に与えたインパクトは、革命的と言っても過言ではない。インターネットのよるVC教育市場は、100億ドルを越える大きなビジネスとしての成長が見込まれている。

わが国でもようやく規制が緩和されて、私企業の学校経営への参入が認められるようになったが、アメリカでは、1970年代にすでに私企業が、大学経営を営利のための企業活動として行う事が認められている。代表的な例として、フェニックス大学（University Phoenix）は、私企業アポログループ（Apollo Group）によって設立された大学で、インターネットによるオンライン遠隔教育を成功させている。最近では、コンピュータ・ソフトウェア開発の大会社オラクル社が設立したカーディアン大学（Cardean University）がある。スタンフォード大学（Stanford University）、コロンビア大学（Columbia University）、シカゴ大学（Chicago University）やロンドン経済大学（London School of Economics and Political Science）がビジネス・スクールのカリキュラムをオンラインで送信し、必要単位の取得者にはMBAの学位を授与している。プロフェッショナル・スクールの法科大学院（Law School）の遠隔教育もさかんになってきている。ケース・スタディ方式によるプロフェッショナル・スクールは、プラグマチックな実学を重んじるアメリカの教育概念と一致し、ますます社会的な需要に応じていくことが予想される。

(3) 大学と私企業のタイアップ及び教育理念と営利 追及の整合性

キャンパスを持つ従来からの大学も又、オンラインによる遠隔教育に着手している。1998年にニューヨーク大学 (New York University) は、学内ベンチャーとして会社を設立し、マンハッタン・ダウタウンのビジネスパーソンを対象に、カリキュラムをオンラインにより提供している。ベンチャー企業として事業に取り組む理由は、ネット配信によるサービスの提供には、開発コストが莫大であるからである。後続して、コロンビア大学 (Columbia University)、ハーヴァード大学 (Harvard University)、コーネル大学 (Cornell University) などの東部の歴史のある名門アイヴィー・リーグ校が参画してきている。これらの大学は、その培ってきたブランドを提供し、外部の私企業とのタイアップによる資本の調達や開発技術のアライアンスを図っている。大学のブランドと企業の技術・資金が補完しあうことにより、オンライン遠隔教育ビジネスの信頼が高まっている。

先に述べた、アメリカ社会の高等教育に対するプラグマティズム (pragmatism; 実益主義) の要請は、教育機会の社会的公正と均等と言う時代の要求と相まって、高等教育機関としての大学と営利を目的とする企業との共存の問題を投げ掛けている。この点に関しては、アメリカ社会が伝統的に産学協同を容認してきていることから、公共サービスとしての高等教育は、利益追求の経済競争と共存し両立すると受け止められている。アメリカにおいては、ヴァーチャル・ユニヴァーシティ (UV) は、この教育理念と営利追求の整合性を克服しながら、着実に発展成長していくと考えられる。

(4) 人格教育と経済効率性との整合

次に、遠隔高等教育が直面している問題点は、教育の大きなミッションのひとつである人格形成が、オンラインの手法によって、果たして達成できるのかという点である。VUのネットによる具体的な受講をWBT (Web Based Training) によるスタンフォード大学 (Stanford University) を例に見てみる。以下は、すべてネット上で処理される手順である。

コースの登録を、ネットの画面上の指示に従って、クレジット・カードで授業料を支払う。IDナンバーでもあるパスワードを知らされ、入力処理する。専攻する学科のカリキュラムとシラバスから課目を選択する。画面上の講義内容を学習し、指示に従って書籍や文献をダウンロードしたり、図書館にアクセスしたり、

オンライン・ショッピングなどにより入手する。質問は、メールやウェブで行う。同期の学生間の議論交換は電子掲示板などで行う。期末の試験や課題もネットで対処していく。合否の判定、単位の認定がなされる。補助的に、CD-ROM、ビデオ・テープ、紙媒体の印刷物の郵送配布などが行われる。

従来大学における教授が、講義内容の決定とそれに基づく講義を中心とした学習指導と試験等の成績評価を、すべて担当して処理していたのに対して、オンラインによるVU教育では、学習内容は、教授が作成するが、受講生からの質問への回答、各受講生の学習進捗状況の管理、学習成果の評価などは教授とは別のアカデミック・アドヴァイザー (academic adviser) もしくは、メンター (Mentor; ギリシア神話のオデッセウスが、わが子の保護と教育を託した良友。賢明で誠実な助言者) などが担当する。受講生各人には、それぞれメンターやチューター (tutor; 個人指導教授) が特定され入学から修了まで責任をもって、学習に対する動機付けを継続させる役割を担う。このことは、教員の役割分担が、従来の形態とは異なっている事を示唆している。従って、VUにおいては、常勤の教授陣は必ずしも必要ではなく、非常勤講師や専門職員で運営が可能であることを意味している。

知識や技能を習得させる機能は、オンライン教育においては、むしろより効率的であるかもしれない。一方、教育が果たす重要な機能としての人格形成機能がある。人格形成は、オンキャンパスでの教師や学友との授業以外での触れ合いによって、醸成される物と見なされて来た。高等教育の対象に18歳から22歳のいわゆる学部生 (undergraduate) を含むとするならば、確かに、この人格形成機能は、オンラインのよるVUでは、キャンパスに集って交流を交わす従来型の大学には、及ばないであろう。しかし、VUの受講者は、社会に出て職業に付き、あるいは家庭生活を営むいわゆる社会人を対象にしているのが実体であることから、人格形成はすでに修了しているのであるから、この点の考慮は、不要であると考えても差し支えないものと思われる。VUの中には、ネット上での学生間同士のチーム別のゲームの場を、提供するなどの工夫によって、受講生に大学への帰属意識の高まりや結びつきの機会を図っている。

むすび

アメリカの高等教育の現状と今後の展望を考察すると、わが国がこれから直面すると思われる諸問題の予測とその回答が得られるかもしれない。高等教育に対

して、社会のすべてが関連性をもつ「生涯学習社会」の到来は、学習の時期という点において、全生涯にわたり可能となり、教育機関の種類も多岐にわたる事になる。あらゆるタイプの高等教育機関は、細分化し、その統括的管理や調整機能は低下するだろう。ヴァーチャル・ユニヴァーシティ（VU；virtual university）に代表される新しいシステムは、旧来の高等教育機関の存在意義を脅かす事になるだろう。伝統的な教育システムは、高等教育に関しては、「量」の規模において縮小していくが、「質」の面において、高品質のプロフェッショナルの養成と最先端のアカデミックな産物の生産拠点として、社会における中心的存在としての役割をはたすことになると思われる。

インターネットによるオンライン・システムの特性を活用することによって、国境を越えて国際共同体（コンソーシアム；international consortium）が結成され、それぞれの構成機関が、カリキュラムやプログラムを提供している。2000年に設立された全世界大学連合（Global University Alliance）やユニヴァーシタス21（Universitas 21）などのコンソーシアムの今後のさらなる展開が待たれる。

筆者（伊藤飛鳥）は、客員研究員（visiting researcher）として、2003年7月より6ヶ月間、ニューヨーク市のコロンビア大学（Columbia University）ティーチャーズ・カレッジ（教育研究所）において、アメリカの教育に関する研究に従事する機会に恵まれた。本稿は、この機会を利用した論考の一部である。本稿の脱稿にあたり、池ノ上直隆教授のご指導を賜った事に深謝いたします。

主要引用文献

- ① C.カー編、喜多村和之 監訳「アメリカ高等教育の歴史と未来：21世紀への展望」、玉川大学出版部 1998
Clark Kerr, "High Education Cannot Escape History, Issues for the Twenty-First Century"
- ② P.G.アルトバック/ R.O. バーダール/ P.J. ガムポート編、高橋靖直訳「アメリカ社会と高等教育」玉川大学出版部、1998年、"Philip G. Altbach, R.O. Berdahl, P. J. Gumpert et al. "Higher Education in American Society"
- ③ 監修：バーチャル・ユニバーシティ研究フォーラム発起人、坂元昴、「バーチャル・ユニバーシティ IT革命が日本の大学を変える」(株)アルク 2001
- ④ トロウ、マーチン、喜多村和之編訳「高度情報社

会の大学」、玉川大学出版部、2000

参考文献・資料

- ① Clark Kerr, "Vignett-Faculty: The Moods of Academia," in *The Great Transformation of Higher Education, 1960-1980* (Albany: State University of New York Press, 1991)
- ② Clark Kerr, *Troubled Times for American Higher Education* (Albany: State University of New York Press, 1994)
- ③ Alain Touraine, *The Academic System in American Society* (Berkeley: Carnegie Commission on Higher Education, 1974)
- ④ Clark Kerr, *The Great Transformation in Higher Education, 1960-1980* (Albany: State University of New York Press, 1991)
- ⑤ Epper, Rhonda Martin, *State Policies for Distance Education: A Survey of the States, State Higher Education Executive Officers*. 1999
- ⑥ Saba, Farad, "Why Distance Education Will Fail and Harm Higher Education?" "Distance Education.com., <http://www.distance-education.com> 2001
- ⑦ Institute for Higher Education Policy, *Quality on the Line: Benchmarks for Success in Internet-based Distance Education*, 2000
- ⑧ National Center for Education Statistics, *Distance Education at Postsecondary Education Institutions*, U.S. Department of Education, Office of Educational Research and Improvement: Washington D.C. 1997-1998

参考 URL

- ① Stanford University~
<http://stanford-online.stanford.edu/demo/index.html>
- ③ Excelsior College~ <http://www.excelsior.edu/>
- ④ California Virtual Campus~ <http://www.cvc.edu/>
- ⑤ University of Phoenix~ <http://www.phoenix.edu/index-open.html>
- ⑥ Virtual College Sports~
<http://www.virtualcollegesports.com/>
- ⑦ Global University Alliance~ <http://www.gua.com/>
- ⑧ Universitas 21~ <http://www.universitas.edu.au/>